



宮海道堰堤を見学しました!



令和7年3月1日現在

世帯数	835戸
男	853人
女	871人
総人口	1,724人

12月10日(火)に入山辺公民館講座「宮海道堰堤を見学しよう!」が近隣住民の方のご協力のもとに開催されました。市文化財課の職員にも堰堤の特徴、歴史的・社会的背景について説明をいただきました。

令和6年12月3日、国登録有形文化財に登録された「宮海道堰堤」は昭和14年に長野県によって建設されたもので、国内初のアーチ式砂防堰堤とみられています。また、建設から80年を過ぎる現在も、薄川中流部でその機能を果たし続けており、文化庁からも「近代砂防が大きく発展する時代を象徴する歴史的な建造物と言える」と評されています。

講座の参加者からは「地区内にこのような貴重なものがあるとは知らなかった。見ることが出来て良かった」、「このようなものが地区にあることが誇りに思う」というお話が聞かれました。

※堰堤周辺は民有地、危険な箇所があり、詳しい方の指導下で見学を行いました。詳細につきましては、入山辺公民館にお問合せください。

(電話 32-13389)

事八日



今年も、2月8日を中心に「事八日」行事が入山辺各集落で取り组まれました。舟付、中村、奈良尾、上手町、厩所で開催されている伝統行事です。



令和7年 上手町の事八日

上手町では「貧乏神まくりだせ! 風邪の神まくりだせ!」と声を掛け合いながら、藁馬を引いて回り、無病息災を願いました。



10年後、20年後のあなたの移動手段は何ですか？

車での移動が出来なくなったとき、買い物、病院などにどのように通いますか？



平成29年から運行している入山辺線ですが、利用者が少なく、このままでは運行存続が厳しい状況です。現在は松本市からの補助金 (1,000万円) を頼りに運行していますが、利用者が少ない路線では補助金を貰えなくなる可能性があります。入山辺線を存続させるためには多くの方にご利用いただくしかありません。

◆今は良くて...もしバスの運行がなくなると...

①移動手段の制限

- ・車を持っていない人や車の運転ができない人にとって移動手段が困難になります。
- ・交通手段が限られることで通院や買い物などが不便になります。

②地域の孤立

- ・公共交通が無くなることで地域が孤立していきます。

③降雪時の道路除雪

- ・雪が降ると、バス路線の道路は除雪が行われています。バスが走らなくなると、除雪が行われなくなり、地域の皆さんで除雪をせざるを得なくなります。業者に依頼をしてもお金が掛かってしまいます。



■入山辺線の詳細はこちら➡
 または、事務局 (入山辺地区地域づくりセンター) へお問合せください。
 電話：32-1389



ステップが付いて
 乗り降りしやすくなっています。



このままではバスが走っていない「不便な入山辺地区」になりかねません！
 平日の月1回、入山辺線を利用して外出してみませんか？
 あなたの利用が未来を変える！入山辺線を存続させるために！

入山辺地区公共交通協議会 会長 臼山 佳明 (町会連合会長)

2月1日に入山辺、里山辺の中学2年生を対象にした山辺地区立志式が教育文化セン

山辺地区 立志式



あじさいの会 年長さんとの交流会の様子

あじさいの会(うたの会) 入山辺保育園の年長さんと歌の交流会
 2月28日(金)に入山辺公民館の利用団体「あじさいの会(うたの会)」が入山辺保育園の年長さんを招待し、歌の交流会を行いました。
 「ふるさと」、「ゆき」、「うれしひなまつり」を一緒に歌い、卒園間近の年長さんからは「ドキドキドン！一年生」、「みんなともだち(きりん組ヴァージョン)」の2曲を披露していただきました。

原・厩所町会では、入山辺公民館主催の行事に参加すると同時に「歩け歩け大会」「敬老祝賀会」「球技大会」等の町会独自の行事を実施しています。「町会の親睦を図ること」

我が町会の自慢！ 原・厩所町会

参加をされた中学生のアンケートからは「山辺の素晴らしいと感じた」、「地域のために消防団や町会など色々な人が関わっているということがわかった」という声が聞かれました。



立志式の様子 (2月1日)



原・厩所町会の敬老祝賀会

を目的とし、今年も多くのみなさんに参加していただきました。
 敬老祝賀会は、この3年程コロナ禍のため実施していませんでしたので慎重な意見もありましたが、「地域のために尽力された大先輩の皆様への敬意と感謝を伝える会をやるう」という思いで実施にこぎつけました。当日は、昨年発足した「木遣保存会」の披露に投げ銭もとび、終始笑顔あふれる会になりました。
 球技大会は、グラウンドゴルフを楽しんだ後、「ゴルフPK」や「じゃんけん列車」の新しいゲームを行い盛り上がりしました。
 少子高齢化が進み、人間関係が希薄になりつつある今だからこそ、町会の親睦を図り互いの絆を深めていきたいと考えています。
 (公民館長 中野勝美)